

平成17年12月20日
消 防 庁

「消防防災科学技術研究推進制度」における 平成18年度研究開発課題の募集

消防庁では、平成18年度における消防防災科学技術研究推進制度に係る研究開発課題の募集を以下のとおり行いますのでお知らせします。

「消防防災科学技術研究推進制度」は、消防防災科学技術の振興を図り、安心・安全に暮らせる社会の実現に資する研究を、提案公募の形式により、産学官において研究活動に携わる者等から幅広く募り、優秀な提案に対して研究委託し、より革新的かつ実用的な技術へ育成するための制度です。

1. 対象となる研究開発

技術開発に関する研究の内容が、我が国の直面する消防防災に係る課題の解決にとって、実用的な意義が大きいものであり、かつ、消防防災への波及効果が具体的に想定される、科学技術（自然科学及び人文・社会科学）に関する萌芽的研究・基礎的研究・応用研究・開発研究を公募の対象とします。

平成18年度の公募では、対象を大きく2つに分けており、1つは以下に示すとおり予め設定した研究テーマを対象とするもので、もう1つは消防防災分野全般を対象とします。

【テーマ設定型】

- ①従来より長時間（約1時間）連続使用可能で、重量は現在と同程度（約3キロ）の呼吸器具の開発
- ②機械としての性能は維持しつつ、劇的に軽量化（約半分の重量）を図った救助資機材の開発
- ③消防隊員が安全に活動できるように、一定量の放射線（例えば50ミリシーベルト）を浴びた場合にそれが判断できる（変色、発光等）防護服等の開発
- ④従来の泡消火薬剤に比べ劇的に（約1時間）形状安定性を有する消火又は延焼拡大防止の薬剤等の開発
- ⑤従来と同程度の大きさで性能が大幅に改善された（切断速度が約2倍）高速切断器具の開発
- ⑥可燃性蒸気が存在する雰囲気下で使用可能な高速切断器具（大きさ、性能は従来程度）

の開発

- ⑦従来と同程度の大きさを性能が大幅に改善された（出力が約2倍）ジャッキ（類する器具を含む）の開発
- ⑧従来と同程度の大きさを性能が大幅に改善された（出力が約2倍）スプレッダー（類する器具を含む）の開発
- ⑨震災時等に建築物等の倒壊現場のガレキ下（地下約5m）に埋まった生存者の有無及びその位置を迅速に特定するための手法の開発

【消防防災全般】

上記の①～⑨以外のもの

2. 研究実施期間

平成18年度を始期とする1年間、2年間又は3年間

3. 研究費の額

- (1) 直接経費で、年間100万円以上400万円を上限とする額
 - (2) 直接経費で、年間400万円を超え2,000万円を上限とする額
- ※ これらの区分は、研究対象領域、応募研究機関、研究の性質による区分ではなく、あくまでも実施予定の研究の規模による区分です。
- ※ 研究資金の配分額として、直接経費の他、本研究に関わる事務手続きに要する費用として、間接経費（直接経費の30%を上限とする額）を要求することができます。

4. 募集期間

平成18年1月4日（水）～平成18年2月28日（火）

5. 申請書類の作成・提出

応募様式は消防庁、消防研究所のホームページにて公開します。

- ※1 「平成18年度 消防防災科学技術研究推進制度公募要領」は別添のとおり
- ※2 本件は、平成18年度予算により委託が行われるものですが、予算成立後できるだけ早く委託研究を実施するため、予算成立前に公募を行うこととしているものです。今後変更等があり得ることをあらかじめご承知おき下さい。

6. 昨年度の公募件数及び採択件数

応募75件（A区分22件、B区分53件）、採択11件（A区分2件、B区分9件）

（連絡先）

消防庁予防課

担当：中本・伊藤・岡田

電話：03-5253-7523

FAX：03-5253-7533